国分寺崖線（世田谷区内）湧水調査委託

報　告　書

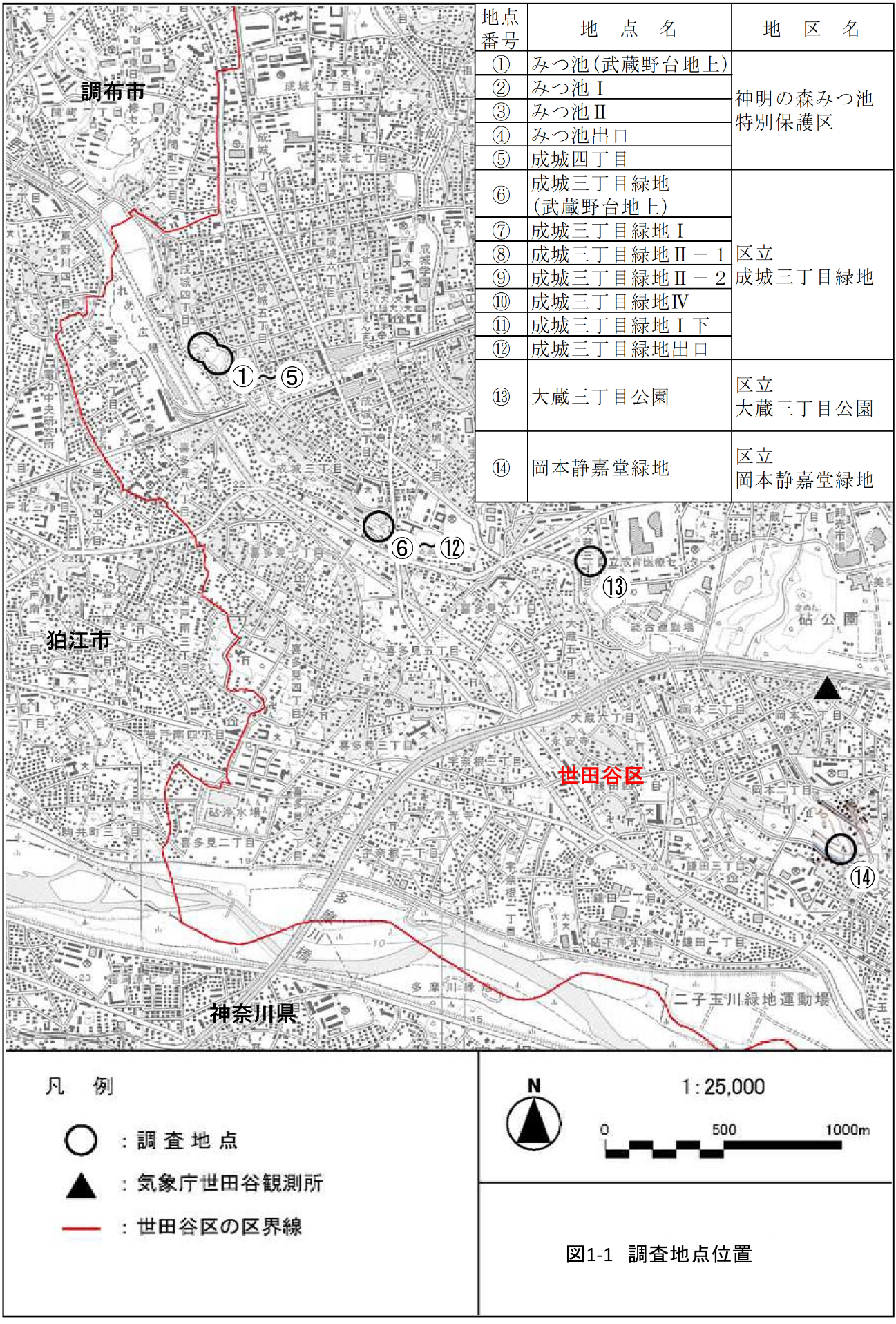
令和6年3月

世田谷区みどり政策課

株式会社　エオネックス

# １－３．調査位置

調査地点位置の全体図を図1-1に、調査地点の詳細図は図1-2(1)～(4)に示す。



# ４．調査結果

# ４－１．地下水位の観測結果

表4-1に今年度を含む過去18年間の世田谷区における降水量観測結果を示し、表4-2には統計開始以降（1976年）今年度までに観測された世田谷区の降水量の順位を示した（年間、4月、6月、7月、3月のみ抜粋）。4月と7月の月降水量については、少ない方からの順位を示し、それ以外は全て多い方からの順位を示した。①みつ池（武蔵野台地上）、⑥成城三丁目緑地（武蔵野台地上）における観測結果については、表4-3に2006年度から2023年度の各年に観測された地下水位の最大値、最小値、平均値の集計表を示し、図4-1には今年度、図4-2には2006年度から2023年度の地下水位及び降水量観測結果の変動を示す（図4-2は月平均値で表記）。地下水位は水圧式自記水位計を用い1時間毎に連続観測し、数値は毎日夜間0時の値を使用した。降水量の平年値は過去30年間（1991年～2020年）における平均値を表している。

今年度の年間降水量は1369.5mmであり、2006年度以降で最も低い記録であった。月降水量が平年値を上回った月は、5月、6月、2月、3月で、特に6月の降水量は326.0mmであり、平年値（170.5mm）の2倍近い値で年間の最大値を記録した。6月1日から6月3日にかけて、台風2号の影響に伴い梅雨前線が活発となり、太平洋側を中心に大雨をもたらした。該当期間に世田谷区で観測された日降水量は、6月2日に152mm（統計開始以降第1位）、6月3日に83mm（統計開始以降第5位）であり、記録的な大雨となった。それ以外の月は平年値を下回り、特に7月の降水量は26.5mm（平年値168.5mm）と平年値の20%にも満たず、統計開始以降最も少ない記録であった。年間を通じた変動をみると、期間の初め、特に5月、6月は記録的な大雨もあり平年を超える降水量が観測されたが、夏季以降は平年値に近い降水量が記録された9月を除いて冬季まで少雨が続き、2月以降は期間の終わりまで降水量がやや多くなる傾向であった。

表4-1　降水量（アメダス世田谷）



※気象庁　過去の気象データ（アメダス世田谷）より引用。

※赤色部分は各月毎の最大値、青色部分は最小値を示す（合計においては、年毎の最大値及び最小値）。

表4-2　過去の気象データ

※気象庁　過去の気象データ（アメダス世田谷）「地点ごとの観測史上1～10位の値」より、一部抜粋。

※下段（　）内は観測年月日、着色部分は今年度の記録を表す。

（１）①みつ池（武蔵野台地上）

今年度のみつ池の地下水位はTP+31.646m～TP+32.687mの範囲で変動し、最大値は6月6日

に観測され、また最小値は2月7日に観測された。年平均水位はTP+31.991mであり、2006

年度から2023年度までの平均値（TP+32.014m）を下回った。2022年度（TP+32.090m）を下回

ったが、2018年度以前の年平均水位と比較すると概ね同水準であった。年間変動は図4-1に

示す通りである。

6月初旬の降水量が記録的であった影響により、顕著な地下水位の上昇が生じ、6月6日に

最大値を記録した。その後、7月、8月は少雨であったため、緩やかに地下水位は低下する傾

向が確認された。その後、9月にある程度の降水がもたらされ、10月にかけて地下水位は若干

上昇する傾向であったが、平年以下の降水量であったため、一定の水準が維持される程度にと

どまった。その後11月から1月下旬までの間は、平年以下の降水量となった月が続いたため、

地下水位は一様に低下していく傾向であった。2月7日に最小値を記録した後は、まとまった

降水が記録されたため、観測期間の終わりまで多少の変動を繰り返しながら地下水位の緩や

かな上昇が確認された。

（２）⑥成城三丁目緑地（武蔵野台地上）

今年度の成城三丁目緑地の地下水位はTP+28.361m～TP+29.077mの範囲で変動し、最大値及

び最小値はみつ池とほぼ同時期である、6月7日及び2月5日に観測された。年平均水位は

TP+28.547mであり、2006年度から2023年度までの平均値（TP+28.574m）をわずかに下回っ

た。①みつ池と同様に2022年度（TP+28.591m）を下回る結果であり、2018年度以前の年平均

水位と概ね同水準であった。年間変動は図4-1に示す通りである。

変動幅は、みつ池と比較するとやや小さいが、季節変動は類似していた。6月初旬に記録的

な降水が観測されたため、地下水位は顕著に上昇し、6月7日には最大値を記録した。7月、

8月は少雨であったため、地下水位は徐々に低下し、その後9月にある程度の降水がもたらさ

れ、10月にかけて地下水位は若干上昇する傾向であったが、①みつ池よりも低い水準であっ

た。その後11月から1月下旬までの間は、再び少雨傾向が続いたため、地下水位は一様に低

下し、2月5日に最小値を記録した。2月中旬以降は定期的な降水が記録されたため、観測期

間の終わりまで地下水位の緩やかな上昇が確認された。

表4-3　地下水位観測結果集計表（2006年度～2023年度）

図4-1　2023年度　地下水位及び降水量連続観測結果

図4-2　2006年度～2023年度　地下水位及び降水量連続観測結果（月平均）

# ４－２．湧水量Ａの観測結果

②みつ池Ⅰ、④みつ池出口及び⑬大蔵三丁目公園における観測結果については、表4-4に

2006年度から2023年度の湧水量観測結果の平均値、最大値、最小値を示し、図4-3には今年

度、図4-4には2006年度から2023年度の湧水量及び降水量観測結果の変動を示す（図4-3は

7日間移動平均、図4-4は月平均値で表記）。湧水量は、②みつ池Ⅰではフロート式自記水位

計と三角堰、④みつ池出口ではフロート式自記水位計とパーシャルフリューム、⑬大蔵三丁目

公園では水圧式自記水位計とパーシャルフリュームを用いて連続観測し、数値は毎日昼間12

時の値を使用した。

表4-4　湧水量Ａ観測結果集計表（2006年度～2023年度）

（１）②みつ池Ⅰ

今年度のみつ池Ⅰの湧水量は、0.00014L/sec.～1.545L/sec.の範囲で変動し、最大値は6月

9日に観測された。また最小値は2月20日～21日の間に観測された。年平均湧水量は

0.289L/sec.であり、2006年度から2023年度までの平均値（0.777L/sec.）を下回り、2007年

度に次いで低い数値となった。年間変動は図4-3に示す通りである。4月から5月にかけては

低い水準で湧水量が維持され、6月初旬の記録的な降水の影響で、湧水量は急激に増加し、6

月9日にピークに達した。その後、夏季は少雨傾向であったため8月にかけて緩やかに減衰

し、9月から10月にかけては、まとまった降水が観測された時期と同調して、数回の増減を

繰り返した。10月下旬以降は冬季にかけて再び減衰傾向となり、1月下旬には0.001L/sec.を

下回る極めて低い水準まで減少したが、昨年度同様に完全な渇水状態は発生しなかった。2月

下旬から観測期間の終わりにかけては、定期的に一定以上の降水が観測されるようになった

影響で、湧水量は緩やかに増加する傾向であった。なお、6月4日から6月8日の間は、流量

計導入部のスクリーン部分に目詰まりが発生し越流が確認された為、異常値と判断し、観測結

果から除外した。

（２）④みつ池出口

今年度のみつ池出口の湧水量は、0.028L/sec.～11.978L/sec.の範囲で変動し、最大値は6

月6日に、最小値は1月16日～20日の間にそれぞれ観測された。年平均湧水量は2.539L/sec.

であり、2006年度から2023年度までの平均値（3.128L/sec.）を下回った。年間変動は図4-

3に示す通り、変動幅に大きな違いはあるものの、概ねみつ池Ⅰの湧水量とほぼ同調した変化

が見られた。6月上旬のピーク発生以降は急激な減少が続いたが、9月から10月にかけては断

続的に3回程度、湧水量の増加が確認され、その後、最小値を記録した1月16日～20日まで

再び湧水量は減少し続けた。2月以降は観測期間の終わりにかけて、平年以上の降水量が記録

されたため、断続的ではあるが湧水量の回復が見られた。

（３）⑬大蔵三丁目公園

今年度の大蔵三丁目公園の湧水量は、1.057L/sec.～4.129L/sec.の範囲で変動し、最大値は

6月11日に、最小値は2月19日に観測された。年平均湧水量は1.873L/sec.で、2006年度か

ら2023年度までの平均値（3.028L/sec.）を下回り、2018年度に次いで低い数値となった。

年間変動は図4-3に示す通りである。観測期間の始めは一定以上の水準で湧水量が維持され

ていたが、6月初旬の顕著な降水に影響され急激に増加し、6月11日にピークに達した。そ

の後は②みつ池Ⅰと同様に8月にかけて緩やかに減衰し、まとまった降水が観測された9月

から10月の間は若干増加傾向であったが、その変動幅は他の2地点よりも緩やかなものであ

った。11月以降の冬季は緩やかに減少し低い水準となり、2月19日に最小値を記録した後は、

観測期間の終わりにかけて湧水量は緩やかに回復する傾向であった。

図 4-3　2023年度　湧水量Ａ及び降水量連続観測結果（7日間移動平均）

図4-4　2006年度～2023年度　湧水量Ａ及び降水量連続観測結果（月平均）

# ４－３．湧水量Ｂ・Ｃの観測結果

各調査地点における観測結果については、表4-5に2006年度から2023年度の湧水量観測

結果の平均値、最大値、最小値を示し、図4-5、図4-7及び図4-9には今年度、図4-6、図4-

8及び図4-10には2006年度から2023年度の地点毎の湧水量及び降水量連続観測結果の変動

を示す（図4-6、4-8、4-10は月平均値で表記）。湧水量は、⑩成城三丁目緑地Ⅳと⑪成城三丁

目緑地Ⅰ下では断面法（湧水量Ｃ）で観測し、その他の地点については容器法（湧水量Ｂ）で

観測を実施した。

表4-5湧水量Ｂ・Ｃ観測結果集計表（2006年度～2023年度）

※2012年度以前の集計値は2012年度報告書の通年データを再集計した値

（１）③みつ池Ⅱ

今年度のみつ池Ⅱの湧水量は、0.010L/sec.～1.100L/sec.の範囲で変動し、最大値は6月8

日に観測された。また最小値2月20日に観測された。年平均湧水量は0.252L/sec.であり、

2006年度から2023年度までの平均値（0.202L/sec.）を上回った。年間変動は図4-5に示す

通り、降水量と概ね連動した挙動を示し、5月から6月にかけては最大値を記録した6月8

日をピークとし、顕著な上昇が確認された。夏季は少雨の影響で、低水準にまで減衰、その後

は、9月から10月にかけて数回の増加が確認されたが、ピーク時の50%にも満たない数値であ

った。11月以降は緩やかに減衰し、12月末から3月上旬までの間は0.1L/sec.以下の極めて

低い水準で維持されていた。3月中旬以降はある程度の降水も観測された影響で、湧水量は

徐々に回復する状況であった。当該地点では、2018年度の終わりから2019年度の初めにかけ

て渇水状態となった期間があったが、今年度の観測期間中に渇水は生じなかった。

（２）⑤成城四丁目

今年度の成城四丁目の湧水量は、0.103L/sec.～2.425L/sec.の範囲で変動し、最大値は6月

8日に観測された。また最小値は2月14日に観測された。年平均湧水量は0.540L/sec.で

あり、2006年度から2023年度までの平均値（0.525L/sec.）を僅かに上回ったが、高い傾向

が続いていた2019年度以降では最も低い結果であった。年間変動は図4-5に示す通りである。

概ね、みつ池Ⅱの変動パターンに近い傾向であり、6月に最大値が観測され、その後9月から

10月にかけて数回の増加が確認されたが、その変動幅はみつ池Ⅱよりも大きかった。

（３）⑦成城三丁目緑地Ⅰ

今年度の成城三丁目緑地Ⅰの湧水量は、0.237L/sec.～2.833L/sec.の範囲で変動し、最大値

は6月8日に観測された。また最小値は2月20日に観測された。年平均湧水量は0.806L/sec.

であり、2006年度から2023年度までの平均値（0.857L/sec.）よりやや低い値であった。

年間変動は図4-7に示す通り、観測期間の初めは低い水準で湧水量が維持されており、最大値

を記録した6月8日に顕著なピークが見られ、それ以降も他の観測地点と概ね同様な変動パ

ターンを示した。その変動幅は緩やかなものであり、冬季においてもある程度の湧水量が維持

されていた。

（４）⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1

今年度の成城三丁目緑地Ⅱ-1の湧水量は、0.013L/sec.～3.156L/sec.の範囲で変動し、最

大値は6月8日に観測され、最小値は2月6日に観測された。年平均湧水量は0.507L/sec.であり、2006年度から2023年度までの平均値（0.585L/sec.）を下回り、2019年以降では最も低い結果であった。年間変動は図4-7に示す通り、成城三丁目緑地Ⅰとほぼ同様の挙動を示したが、最小値の観測日は他の観測地点よりやや早めであり、また、その減衰幅は大きく、12月末から2月末までのおよそ2カ月間は、0.1L/sec.以下の渇水状態に極めて近い水準で湧水量が維持される状態であった。

（５）⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2

今年度の成城三丁目緑地Ⅱ-2の湧水量は、0.273L/sec.～1.007L/sec.の範囲で変動し、最

大値は6月8日に観測された。また最小値は2月6日に観測された。年平均湧水量は0.427L/sec.であり、2006年度から2023年度までの平均値（0.495L/sec.）を下回った。年間変動は図4-

7に示す通りで、6月に顕著なピークが見られた。しかしながら、変動幅は他の観測地点より

小さく、それ以外の期間は年間を通じて著しい増減は認められず、常態として一定以上の湧水

量が確保されていた。

（６）⑩成城三丁目緑地Ⅳ

今年度の成城三丁目緑地Ⅳの湧水量は、0.372L/sec.～7.307L/sec.の範囲で変動し、最大値

は6月8日に観測された。また最小値は4月19日に観測された。年平均湧水量は1.764L/sec.

で、2010年度から2023年度までの平均値（1.891L/sec.）をわずかに下回った。年間変動は

図4-7に示す通りである。観測期間の初めは低い水準で湧水量が維持され、4月19日に最小

値を記録した。その後、最大値を記録した6月に顕著なピークが見られた。9月から10月に

かけては降水量の影響を受けて増減を繰り返し、それ以降は緩やかに減衰、観測期間の終わり

に再び増加する傾向であった。

（７）⑪成城三丁目緑地Ⅰ下

今年度の成城三丁目緑地Ⅰ下の湧水量は、0.411L/sec.～6.940L/sec.の範囲で変動し、最大

値は6月8日に観測された。また最小値は4月25日に観測された。年平均湧水量は1.301L/sec.

であり、2010年度から2023年度までの平均値（1.759L/sec.）を下回った。年間変動は図4-

7に示す通り、概ね他地点と同様の変動パターンを示し、6月に顕著なピークが見られ、その

後は9月から10月にかけてやや増加する傾向であった。冬季にかけては緩やかに減衰し、3

月にまとまった降水の影響を受けるまで、0.5～1.0L/sec.程度の低い水準で維持されていた。

（８）⑫成城三丁目緑地出口

今年度の成城三丁目緑地出口の湧水量は、0.723L/sec.～12.592L/sec.の範囲で変動し、最

大値は6月8日に観測された。また最小値は2月20日に観測された。年平均湧水量は2.830L/sec.であり、2008年度から2023年度までの平均値（3.495L/sec.）を下回った。年間変動は図4-7に示す通り、他の観測地点と同様に変動パターンであったが、その変動幅は極めて大きく、6月のピークから8月にかけて10.0L/sec.以上も減衰した。その後は9月から10月にかけては増加傾向であったが、ピーク時の30％程度の湧水量であった。1月から2月にかけて、湧水量は最小値に近い水準まで低下したが、観測期間の終わりには再び増加傾向が見られた。

（９）⑭岡本静嘉堂緑地

　　　　本観測地点は、2013年度から場所が変更されたため、平均値の算出も該当年度以降より行

った。今年度の岡本静嘉堂緑地の湧水量は、0.247L/sec.～1.073L/sec.の範囲で変動し、最大

値は6月8日に観測され、最小値は2月14日に観測された。年平均湧水量は0.426L/sec.で

あり、2013年度から2023年度までの平均値（0.495L/sec.）をやや下回った。年間変動は図

4-9に示す通り、6月の顕著なピークが観測された時期以外は、観測期間の大部分で、0.3～

0.4L/sec.程度の安定した湧水量が維持されていた。最大値は年平均湧水量の2.5倍程度で、

変動幅は全観測地点の中で比較的小さかった。他の観測地点では、9月から10月にかけて、

少なからず湧水量の増加が確認されていたが、本観測地点では、9月中旬、わずかに増加が見

られる程度であった。また、表4-5に示した2013年度からの観測結果より、いずれの年も最

大値が1.0L/sec.前後、最小値が0.3L/sec.前後、平均値が0.5L/sec.前後と毎年同水準とな

っており、長期的に見ても湧水量は全観測地点中最も安定していたが、今年度の年平均湧水量

は2013年度以降では、2018年度の0.417L/sec.に次いで低い数値であった。

図4-5　2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（神明の森みつ池特別保護区）

図4-6　2006年度～2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（月平均）

（神明の森みつ池特別保護区）

図4-7　2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（区立成城三丁目緑地）

図4-8　2006年度～2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（月平均）

（区立成城三丁目緑地）

図4-9　2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（区立岡本静嘉堂緑地）

図4-10　2013年度～2023年度　湧水量及び降水量連続観測結果（月平均）

（区立岡本静嘉堂緑地）

# ４－４．簡易水質検査の結果

各調査地点における簡易水質検査の結果を、過年度の結果及び平均値と合わせて表4-6に

示す。豊水期は2023年10月19日、渇水期は2024年1月10日にそれぞれ実施した。一般

的に渇水期の方が、より周囲の環境の影響を反映しやすいため、湧水の経年変化を把握する

上で重要な指標となる。

（１）pH

神明の森のみつ池特別保護区では、②みつ池Ⅰは、豊水期が6.1、渇水期が6.7、③みつ池

Ⅱは、豊水期が6.2、渇水期が6.9、④みつ池出口は、豊水期が7.6、渇水期が7.1、⑤成城四

丁目は、豊水期が6.5、渇水期が6.9であり、豊水期の方が渇水期より小さい値となった地点

が多かった。特に③みつ池Ⅱでは、渇水期と豊水期の間に0.7程度の差が生じた。いずれの地

点においても豊水期より渇水期の方が、年による変動が大きかった。

区立成城三丁目緑地においては、神明の森のみつ池特別保護区ほどの差は見られないもの

の、豊水期の方が渇水期より小さい値となった地点が多かった。⑦成城三丁目緑地Ⅰ及び

⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2では、豊水期、渇水期ともに6.4と季節変動は確認されなかった。

また、神明の森のみつ池特別保護区と同様に、豊水期より渇水期の方が、年による変動が大き

い傾向にあり、特に⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1の渇水期は6.0～7.2（平均値6.4）の範囲で変動

し、今年度は6.4と平均値と同程度であり、⑫成城三丁目緑地出口の渇水期は5.9～7.8（平

均値7.3）の範囲で変動し、今年度は7.5であった。一方、豊水期は比較的安定した数値を示

す地点がほとんどであり、⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2における今年度の結果は、2008年度以降で

最も高い6.4であったが、年変動は6.1～6.4の範囲で安定していた。

⑬大蔵三丁目公園の今年度の結果は、豊水期、渇水期ともに6.5であり、季節的な変動は

認められなかった。これまでの結果を見ると、豊水期は6.1～6.8、渇水期は6.1～6.6の範囲

で変動しており、少なからず季節的な差が生じる年もあったが、2008年度からの平均値は豊

水期、渇水期ともに同程度であり、比較的安定した数値を示していた。

⑭岡本静嘉堂緑地のこれまでの平均値は、豊水期が6.4、渇水期が6.6と渇水期の方が若干

高めの数値を示すことが多かったが、今年度は豊水期が6.6、渇水期が6.5であり、昨年度に

引き続き、季節変動は小さかった。また、年による変動範囲も小さく、⑬大蔵三丁目公園より

もさらに安定した数値を示していることがこれまでの結果からも読み取れた。

観測地点が湧水地点直近の地点（②みつ池Ⅰ、③みつ池Ⅱ、⑤成城四丁目、⑦成城三丁目緑

地Ⅰ、⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1、⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2、⑬大蔵三丁目公園、⑭岡本静嘉堂緑地）

では、各年度とも概ね5後半から6後半の数値を示した。これに対し、湧水地点から離れた地

点（④みつ池出口、⑩成城三丁目緑地Ⅳ、⑪成城三丁目緑地Ⅰ下、⑫成城三丁目緑地出口）で

は、概ね7以上の数値を示した年がほとんどであった。④みつ池出口を除いた全地点で、豊水

期より渇水期の方が高めの数値を示す傾向が強く、年による変動も渇水期の方が大きくなる

傾向であった。

（２）RpH

RpHは地下水の採取直後に試料をよく振るか、十分通気して測定するpHをいう。これは大

気中のCO2と平衡状態の地下水のpHを意味する。振る、通気する行為は強制的に地下水の炭

酸ガスと大気中の酸素を入れ替える作業である。

各観測地点とも、顕著な季節的変動は見られなかったが、豊水期の方がやや高い数値を示す

地点が多かった。③みつ池Ⅱ、④みつ池出口、⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1、⑩成城三丁目緑地Ⅳ、

⑪成城三丁目緑地Ⅰ下では豊水期と渇水期の差が0.2であり、季節による差異が最も大きか

った。一方、⑭岡本静嘉堂緑地では、渇水期の方が豊水期より若干高い数値を示した。年によ

る変動は、豊水期の②みつ池Ⅰ及び③みつ池Ⅱでは7.1～8.0の範囲で他の地点よりも大きか

った。一方、湧水地点から離れた地点（⑩成城三丁目緑地Ⅳ、⑪成城三丁目緑地Ⅰ下、⑫成城

三丁目緑地出口）では、概ね7後半から8の範囲を示し、年による変動幅も小さかった。

（３）EC（電気伝導率）

ECは物質の電気伝導性を示す。地下水の場合その値は、溶存イオン量に依存し、溶存量が

多いと高い数値を示す。地下に滞留する時間が長いほど、土壌や岩石からの溶解物質を多く取

り込むことになり、値は高くなる。雨水はECが低く、地下水への流入は値を低下させる方向

に導く。

豊水期、渇水期ともに各地点で観測開始以降の平均値と同程度もしくは下回る数値を示す

箇所が多かった。神明の森のみつ池特別保護区の各地点では、豊水期で152～168μS/cmの値

を示し、地点間の差がほとんど確認されなかった。②みつ池Ⅰではこれまでの最小値と同様の

数値を示した。また、年による変動が大きく、2009年度は最大値の192μS/cmを記録したが、

徐々に低下傾向となり、2018年度以降は150～160μS/cm程度の数値を示している。③みつ池

Ⅱ、④みつ池出口、⑤成城四丁目は最小値ではなかったものの、各地点の平均値を下回る低い

数値であった。年変動も、②みつ池Ⅰと同様に、観測開始以降緩やかに低下している傾向が確

認された。

渇水期では155～156μS/cmの値を示し、豊水期と比較して地点間に大きな差は生じなかっ

た。これまでの平均値を比較すると、各観測地点で渇水期の方が若干高い傾向が確認されたが、

経年変化を見ると、季節的な変動は年々小さくなり、ここ数年では豊水期の方が高い場合が多

くなっている。年変動に関しては、②みつ池Ⅰでは大きく、渇水期の変動幅は154～337μS/cm

の範囲であった。また、③みつ池Ⅱでは、豊水期の変動幅は163～242μS/cmの範囲、渇水期

の変動幅は156～242μS/cmの範囲でいずれも同程度の変動が確認された。その他の観測地点

でも、少なからず年による変動は確認され、豊水期と同様に徐々に低下する傾向が見られた。

区立成城三丁目緑地の各地点では、豊水期で145～178μS/cmの値を示し、神明の森のみつ

池特別保護区と比較して、地点間の差がある程度生じていた。全地点で全て昨年度と同様に平

均値以下の低い値を示し、⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2、⑩成城三丁目緑地Ⅳでは、これまでの最小

値を記録した。年変動は⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1と⑩成城三丁目緑地Ⅳで大きい傾向であった。

また、渇水期では143～166μS/cmの値を示し、豊水期と比較して地点間の差は小さかった。

⑦成城三丁目緑地Ⅰと⑫成城三丁目緑地出口以外では、観測開始以降の最小値を記録した。

これまでの平均値を比較すると、⑧成城三丁目緑地Ⅱ-1、⑨成城三丁目緑地Ⅱ-2、⑩成城三丁

目緑地Ⅳでは豊水期の方が高く、季節変動が大きい傾向にあったが、今年度も同様な変動を示

した。また、⑫成城三丁目緑地出口では、これまでの平均値を比較すると、渇水期の方がやや

高い傾向にあったが、今年度は豊水期が166μS/cm、渇水期が155μS/cmと相違が見られた。

それ以外の観測地点においては、⑦成城三丁目緑地Ⅰでは豊水期が145μS/cm、渇水期が143

μS/cm、⑪成城三丁目緑地Ⅰ下では豊水期が149μS/cm、渇水期が145μS/cmと平均値の傾向

と同様に今年度も大きな季節変動は見られなかった。

⑬大蔵三丁目公園では、これまでの平均値を比較すると若干渇水期の方が高い傾向であっ

たが、季節変動は小さく、今年度は豊水期が203μS/cm、渇水期が202μS/cmであり、同様の

傾向を示した。

⑭岡本静嘉堂緑地では、豊水期が207μS/cm、渇水期が198μS/cmと比較的数値は安定して

いた。これまでの平均値と比較してもほぼ同様の傾向が見られた。

（４）水温

豊水期、渇水期ともにこれまでと同じ傾向を示す結果となった。

④みつ池出口、⑩成城三丁目緑地Ⅳ、⑪成城三丁目緑地Ⅰ下、⑫成城三丁目緑地出口において

は、湧水地点と観測地点間の距離が比較的遠い為、気温の影響を受けやすく、豊水期では17.6

～18.1℃、渇水期では6.0～14.8℃であり、季節的な差が大きくなった。その他の地点は湧水

地点からの距離が近い為、比較的気温の影響を受けにくく、豊水期が17.4～18.0℃、渇水期

は10.0～16.7℃となり、年間を通じて15℃前後の安定した水温であった。

（５）気温

豊水期で観測した気温は19.0～23.5℃、渇水期で観測した気温は1.8～11.5℃であった。

表4-6　簡易水質検査結果（1/3）

表4-6　簡易水質検査結果（2/3）

表4-6　簡易水質検査結果（3/3）